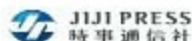


失業率、約27年ぶり低水準=2.2%、求人倍率はマイナスー7月

2019/08/30 10:24



総務省が30日発表した労働力調査によると、7月の完全失業率（季節調整値）は前月比0.1ポイント低下の2.2%となり、1992年10月以来26年9カ月ぶりの低水準となった。2カ月連続の改善。人手不足の中で失業者の就職が進み、完全失業者数も7万人減の154万人と、93年4月以来の水準に減少した。

失業者のうち、新たな求職者は6万人減。ここ数年で主婦や高齢者などの就業が進んだため、「これから仕事を探し始めようという人が減っている」（労働力人口統計室）とみられる。

一方、厚生労働省が同日発表した7月の有効求人倍率（季節調整値）は0.02ポイント低下の1.59倍だった。3カ月連続のマイナスで、昨年3月以来1年4カ月ぶりの水準。米中貿易摩擦の影響で企業の生産活動が弱まり、製造業などで新規求人の減少が続いている。